

RadioDays



ラジオデイズ

声には、
人の体温があり物語がある

月刊「ラジオデイズ」2月号（通巻第33号）
2010年1月28日発行
【発行人】赤塚祐一郎
【編集人】大森美知子
【発行所】株式会社ラジオカフェ
東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル 6F
Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281
http://www.radiodays.jp

2

February Edition
2010, vol.33
Free of charge

この人の声が聴きたい◎2月 内田樹さん（思想家）

脚下の思想家



考えて見れば、この世に生を受けてわずか十年の後に、わたしはこの男に出合ったことになる。爾来半世紀の長きにわたって、交流を続けている。

マロンランナーのような長距離型交友。仕事では、大学を出てからほどなくして、一緒に会社をつくったり、学習塾を開いたりしたが、世間的には仕事上のお付き合いということになる。それもたかだか数年間のことであり、仕事以外のところで濃密な付き合いをしたということはない。

濃密というなら、おそらく数年前に共著を出してから今日までの短い間のほうが、それまでの数十年よりよほど会う機会が増えた。この数年間に、この男、つまり内田樹は見ると見る現代思想界の寵児となった。

もともと、余人をもって代えがたい才能の閃き、知識の蓄積は持ち合わせていたので、むしろそのデビューの遅さの方が奇異な感がある。最近作『日本辺境論』は、内田樹の数多い著作の中でも最もかれの面目が躍如とする傑作と言っている（わたしが書くまでもなく、早くもベストセラーになっている）。

同書は、いわば心理学的地政学、あるいは地政学的心理学というもので、民族・血統の問題とは何のかかわりもない。キーワードである辺境とは国家的集団が採用し、あるいは不可避的に採用せざるを得なかった集団的心理の立ち位置を説明するために導入された補助線のようなもので、この補助線によって

たしたちは実によりありと己の似姿を発見することになる。

上記は、わたしがブログに書いた『日本辺境論』論の抜粋である。

内容の面白さもさることながら、内田樹の思想の特筆すべき吸引力は、それが「文体的な思想」になっているところにある。よくある学者の無味乾燥な文章とは違って、そこには生身の人間が発する体温や、息遣いが聞こえる。そこに独特のユーモアと軽みがうまれば、それはひとつの芸である。

ところで、本年より、ラジオデイズにおいて内田樹との対談「たぶん月刊」はなし半分」が始まった。日本で最も多忙な大学教授を、毎月スタジオに呼ぶことはできない。そこでわたしがかれと何かの用事で会うときに、オリンパスのリニアPCMレコーダーという兵器を持参して収録するという按配の企画である。（二応スポンサーにも気を使っている）。それが、たぶん月に一度ぐらいというので、このタイトルになったのである。

最近、内田樹と話していて、なるほどこの男は根っからの芸人でもあると思うようになった。大向こうの通人の存在は勿論意識しているだろう。同時に、最前列にいるファンに對するサービスも忘れない。だから、どんなに難解、晦渋な思想も、通俗的な感覚に咀嚼し直して語ることができる。だから判りやすい。だから面白い。

（ラジオデイズ・プロデューサー 平川克美）

ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。

飄逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粋と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにもたえる魅力的なコンテンツが満載です。

ただいま入会随時受付中！

会員（会費無料）にならると、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りを！

<http://www.radiodays.jp>

〈対話・放談〉

人気メルマガがおなじみ、田中宇氏の国際ニュース解説『世界はこう読め！I・II』、斬家・瀧川鯉昇師匠の癒し系連続トーク『鯉昇の屋敷まぐら』、ムッシュかまやつさんや、最後のインタビューになった故加藤和彦さんなど、ミュージシャンにお話を伺う『Music Talk』、姜尚中さん、福岡伸一さんなど知的なゲスト満載のラジオ番組の番外編『ラジ街プラス』が好評。さらに、気鋭の映画評論家が現代を表象する人気漫画家たちと濃厚な知的交歓をする『町山智浩の、漫画師に訊け！』が毎月配信されます。脳科学者の茂木健一郎さんが美術評論家の橋本麻里さんと歩きながらニコニコの発火のごとく言葉を紡ぐシリーズも配信中です。

〈文芸〉

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた『声のエッセイ』コレクションが評判。また、『声の詩集』シリーズでは、女優馬丸せつこさん朗読、詩人正津勉さんナビゲートの『詩人の愛』I・IIをお届け中。女優有馬稲子さん朗読の『水仙』や、さらに本邦初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三師朗読による江戸弁で聴く『ゴリ』『外套』『鼻』も発売中。そして、大宰治生誕百年のいま、松平定知さん、山根基世さんなど熟練アナウンサー朗読の『人間失格』『斜陽』他も聴きごたえ十分です。

〈話芸〉

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源約三百本をお届け中。時代に磨かれた古典を自家業籠中に現代に演じきる斬家たち。そして、時代の流がれから湧き出た、かつて語られたことのない新作に鑄る斬家たち。ライブ音源だけに一期一会の斬に出会えます。また、すっきりと背筋の伸びた聴きごたえのある講談は第一、第四金曜に配信しています。まずは試聴ボタンを。

●オリンパスモビープレゼンツ
フジテレビ目玉名人会 (第7回)

【日時】2月27日(土)午後4時開演(午後3時半開場)
【場所】フジテレビ・マルチシアター(台場)

毎回、いまが旬の噺家ひとり、じっくり、たっぷり、見て聴く! 今回登場するのは、華のある江戸弁をあやつり、豊かな表現力が定評のある、古今亭菊之丞。ゲストにアダッぽさがたまらない魅力の三遊亭小円歌を迎え、華やいた宵をお楽しみいただきます。ゲストも交えての芸談をさくコナナがあり、まさに、お目当ての落語家を味わい尽くす至福の落語会。ナビゲーターは、フジテレビアナウンサーの塚越孝。女子アナと一緒に、芸人の魅力にめいっぱい迫ります。

古今亭菊之丞

(こんにてい、きくのじょう)
古今亭園菊門下。平成一五年、真打昇進。二ツ目時代の平成一四年にNHK新人演芸大賞・落語部門大賞受賞。古典落語と真っ正面から向き合う若手真打のなかでも、ひととさわやかな江戸弁と多彩な表現力を持った華のある存在。趣味はカラオケ(懐メロ)、芝居鑑賞、日本舞踊(坂東流)。



三遊亭小円歌

(さんゆうてい、こえんか)
昭和五十四年、三遊亭園歌にスカウトされ、翌年入門。平成四年、三遊亭小円歌襲名。平成五年、国立形演芸会金賞受賞。生粋の寄席者で、現在では数少ない女流三味線漫談である。俗曲・端唄のほかに「かつぼれ」などの寄席唄り、扇子を20本以上も操る「松づくし」なども継承している。



明烏い話

連載第35回 本田久作



速記本、落語の台本というものは、おそろく芝居の台本を真似て書いたためであろう、台詞の頭に役名を付けるのが慣例となつてい

る。つまり
八五郎「こんにちは」
隠居「おや、八つつあんじやないか。まあま、こつちへお上がり」
という具合だ。

たしかにこの方が読む人にとってはわかりやすい。こういう風に書いてみると、このたつた二つの台詞だけで、八五郎が隠居の家をたずねてきたことがすぐにわかる。だが、落語とは本来そういうものではない。これが芝居であれば、Aという役者が八五郎を演じ、Bという役者が隠居を演じる。それぞれそれぞれの扮装もするし、隠居の家が舞台の上につらえてもある。だから右記のように台本を書くのが正しい。ところが落語は一人の噺家が八五郎も隠居も演じる。だからいきなり誰かが「こんにちは」と言ったところで、その人が誰なのかは聞いている方にはまだわからない。その台詞を受けて「おや、八つつあんじやないか」と隠居が言うからこそ、ようやく「こんにちは」と言ったのが八五郎であ

ることが判明する。しかし、「おや、八つつあんじやないか」と言ったのが誰なのかは、この時点ではまだわからないのだ。今度は八五郎の方が「隠居さん、久しぶりですね」とでも言わないかぎり、八五郎の相手が誰なのかはいつまで経ってもわからないままである。

これとは反対に「おい、与太郎」「何だい?」というやり方もある。「与太郎」と呼びかけてこたえるから、こたえた奴が与太郎だと知れるのだ。ついでに「何だい、棟梁」と与太郎が言えば、与太郎に声をかけたのが棟梁であることもわかる。

落語ではこのように登場人物はすべて当人以外の人の台詞によつてその人が誰なのかが判明するようにできている。だから、台詞の頭に役名を付けるのは落語というジャンルの台本にはそぐわない。さらに、新作落語を書く時に台詞に役名を付けると次のような安易な台本まで成り立つてしまう。
火星人「こんにちは」
隠居「うわー、な、何ものだ、お前は」
芝居の台本であればこれでもよい。火星人の扮装をした役者が隠居の家を訪れば、そりゃあ隠居は驚くだろう。だが、落語の台本ではこのように書いてはいけない。隠居の台詞によつて相手が火星人であり、なおかつその火星人は見て驚くに値するほど奇怪な格好をしていることを説明しなくてはならない。

同様に速記本でも役名は要らない。もしも役名が付いていないことでその台詞は誰が言っているのかわからないのであれば、それは実際にその落語を目の前で演られてもわからないということだ。台詞だけでは仕草が見えないが、ほとんどの落語は仕草が見えなくても理解できる。でなければあれほど多くの落

語のCDが発売されているはずがない。
私は落語の速記本の台詞の頭に役名を付けるのは無駄以上に邪魔だと考えている。これは私の発見だと長らく思っていたのだが、そうではなかったことに最近気づいた。私がそう思ったよりも何十年も早くに安藤鶴夫が『わが落語鑑賞』でやはり台詞の役名を取っ払っているのだ。こういうところは、アンツル先生、さすがである。

●ほんだ・きつさく
一九六〇年大阪府生。落語作家。二〇〇二年の「仏の遊び」が国立演芸場台本募集佳作受賞以来、落語、漫才など新作台本関係の賞を毎年総ナメの業界注目の新進作家。主な受賞作「玉手箱」(国立演芸場台本募集優秀作)、「僕の葬式」(按摩の夢)「幽霊蕎麦(いずれも落語協会優秀賞)など

私の讃大ばなし 参拾参

林家しん平

『たらちね』

池袋演芸場での初高座でした。二ツ目時代の八朝兄さんに習って二週間で必死で覚えたのですが、出の前に文太さんが楽屋で「元氣よくやれ」と言ってくれたので、勇んで出たものの、頭が真っ白になって噺を忘れてしまったのです。仕方なく「もう一度勉強してきます」といって高座を下りたのですが、あとで「おまえは文楽か」と言われました。

『柳田格之進』

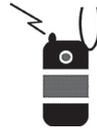
楽屋で働きながら、さん番師匠の高座を聴いたら鮮やかに情景が浮かんできて「ああ、いい噺だなあ」と思ったけれども、誰かが不幸になる噺はどうしても納得できない。大好きだけれども、大嫌いな噺といえるでしょうか。

『替り目』

あたりまえの生活の中に夫婦の情感が感じられて好きな噺です。ふだん寄席で聴ける軽い滑稽噺の良さは、おでんの具で美味しいのに当たったときのようならしい感じ。

行こみちが 行けば

女流二ツ目の修行日乗 ③②



柳亭こみち

寄席では前座さんが毎日お茶を入れる。師匠方の好みは様々。熱い冷たい、濃い薄い。好みを覚えてその通りに入れるのも前座の仕事だ。

入門当初はなかなかうまくお茶を入れられなかった。修業三日目に師匠から言われた。「これ自分で飲んでみな。まずいから」。寄席ではある師匠から「ありがとー！色だけついたお茶を」。噺家はお茶に妥協をしない。

茶屋では、湯飲みや茶托が濡れているのはNO。滴が着物を汚すためだ。お茶を出す際きちんと拭かないと大変なしくじりとなる。

毎日何十杯も入れるうちだんだんこつが掴めてきた。色と湯気を見れば美味しいか否かわかるようになる。茶碗一杯だったりのお湯の量がわかる。落語会場で急須を見れば、普段からお茶を入れている場所かどうかわかる。使いにくい急須を使用しても応用が利く。

昇進してお茶を飲む立場になり、へ妙齡のご婦人の美しい手で入れられたお茶がまずかった。へ学校寄席で、先生の出した湯飲みの滴に着物が汚れた。へ近頃は茶店の店員すら満足に入れられない。へという体験をした。もてなす気持ちと噺家好みのお茶を入れることは別物らしい。

茶屋で前座さんからのお茶に「ぬるい」と言われてハッとした。人のお茶に難癖つけ始めたのは、噺家らしくなった証拠かと。ふふふ。いや待てよ。単純に私、うるさいおばさんになっただけだったらしい。

●りゅうていこみち

社会人生活を経て、平成15年柳亭無路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長唄。特技は日本舞踊、吾妻流名取(宝妻香美)。落語協会野球部。

味な脇役・話芸のきまり文句

連載第33回

古い

松井高志



目はかすむし耳は遠くなる、年はとりたくないもんだ、とぼやくわりにしつかりしている落語「看板のピン」の隠居みたいなのも出てくるが、落語でも講談でも「古い」はなかなかストリートに、かつクールに容赦なく描かれている。

講談の「水戸黄門」で、水戸光圀は、自分の健康について、

古家の造作

という下世話な比喻を用いている。これは、古い家をリフォームしようとする、なんだかんだと傷んだ箇所や不具合が目につくもの

で、結局費用や手数がかかるものだ、という意味で、見た目ががらりと改まるわけでもないのに時間と費用ばかり食うことを皮肉った言葉なのだが、これを「老公は、一年をとるとあちこちガタがきて、療治に手間ばかりかかってかなわんよ」というばやきに比喩として用いているわけだ。

自分の歳を老るのには分られへが人を見るこ驚くやうだ(講談「富蔵藤十郎」)

というように、同じ年くらいの人かむやみに老けてきたのを発見して、初めて自分の身にも老いが忍び寄っているのを知る場合もある。なかには、「赤穂義士伝」に出てくる堀部弥兵衛のように、

年は老っても勇士ミ鐵は朽ちぬ

というような、年齢を知らぬ強者の爺もいるのだが、たとえ武芸の達人でも、爺になれば、

若いものは年寄りをいたわるべきだ(講談「寛永御前試合」の羽賀井一心齋)

と主張したりしている。筆者の周囲を見ても、たいていの場合は、

老いては幼きに帰る(講談「越後伝吉」)

ものであるらしく、どうも年をとったら自然に物事が見えるようになったり悟りの境地に到ったりできるだろうというのは、筋違いな期待であったということが分かってくるのである。

●まうい・たし

一九〇年愛知県生、月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に『人生に効く! 話芸のきまり文句』(平凡社新書)、『ナンドク(難読漢字自習帳)』(バジリコ)、『江戸に学ぶビジネスの極意』(アスペクト)など。『話芸のきまり文句』(講談社)のサイトは <http://wagelion.cocolog-nifty.com/>

たとえば...



ラジオデイズギャラリー入り
microSDカード

microSDカードが使える携帯音楽プレーヤーでお手軽に楽しめます。

パソコンで聴くには、カードリーダーをご使用ください。※携帯電話では再生できません。



Voice-Trek
DS-750

お問い合わせ：(株)ラジオカフェ

<http://www.radiodays.jp/>

メール: info@radiodays.jp Tel.03-3341-1230

発売中

microSD版

ラジオデイズギャラリー

「語り」を持ち歩こう!

いま旬の噺家の息づかいもリアルな必聴落語の数々、現代がよくわかるエッジの立った国際時事解説がこんな小さなカードにみっちり満載です。

・落語永久保存30選

合計収録時間:約20時間09分

¥9,900.-

・爆笑演芸会33選

合計収録時間:約18時間24分

¥9,900.-

・特選現代落語35選

合計収録時間:約14時間11分

¥8,800.-

・田中宇の「世界はこう読め!」

合計収録時間:約11時間27分

¥3,900.-

第32回オリンパスモビー寄席

橘家文左衛門独演会

【会場】お江戸日本橋亭

【本席】2800円（前売2500円）

【時間】午後6時45分開演（午後6時15分開場）

●3月16日(火)

橘家文左衛門・「ゲスト」鈴々舎わか馬

オリンパスモビープレゼンツ

「フジテレビ目玉名人会」(第8回)

【会場】フジテレビ・マルチシアター（編成）

【本席】2800円（前売2500円）

【時間】午後3時開演（午後2時30分開場）

●4月10日(土)

三遊亭歌之介・「ゲスト」ロケット団

＊トークあり。司会・塚越孝十女子アナ

※予約申込受付中。ラジオデイズURL <http://radiodays.jp> もしくは予約受付専用電話：〇二二三四二二二〇より、先着順です。

ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。

お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにストーリーミング放送中。さらに、ポッドキャストでも配信です。どうぞ真夜中の語りに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>
インターネットM毎週日曜日の深夜23時から23時半お話し。

今後の放送予定（深夜のお客様）

2月7日 桂 平治（落語家）

14日 徳山喜雄（カメラマン）

21日 中嶋 廣（編集者）

28日 四元奈生美（卓球選手）

お正月の落語会

鉄博寄席

二〇一〇年新春、ラジオデイズの落語会は鉄道オタク、失礼鉄道ファンのメツカ鉄道博物館から始まりました。鉄道博物館とラジオデイズ共催による新企画でその名も「鉄博寄席」（二月七日）、ダイブな鉄男と鉄女、そして新しもの好きの落語ファンが大集合です。

出演は、東京落語界きつての鉄つちゃん三人衆、柳家小ゑん、三遊亭遊雀、古今亭駒次。否が応にも期待が高まります。

駒次さんが持ち込んだローカル鉄道会社の社歌を集めたCDをネタにしたオープニングトークに続いて、その駒次さんがトップを務めます。ネタはその筋の方々にはご存知『戦国鉄道絵巻』江戸東京を舞台にJR連合と私鉄連合の合戦の幕開きです。

時々刻々変化する戦況に手に汗握る新作落語の傑作が誕生しましたよ。

続いて登場は遊雀師匠、たっぷりと鉄博に因んだマクラを振った後、お得意の『反対陣』。汽車の時間に間に合わそうと人力俵に乗った男、走るに走らない病

人の俵屋から乗り換えたが、草駄天どころか言語を絶する走り屋だった……。いつもながらデフォルメされた人物描写で爆笑をとる遊雀師匠、歴史的な名録音が録れましたよ。

トリはもちりん、オタクと言えはこの人の前に出る者はない小ゑん師匠、鉄博で演じることが出来る榮譽に涙にむせびつつ？ 登場です。ネタは今日の日のために産み育ててきた十八番の『鉄の男』『鉄博バージョン』。オタクの原点と言っても過言でない自作の名作です。

鉄道に命をかけ、人生そのものとなった男たち、鉄道のある風景もあるべき美しさに代えてしまうという壮大な物語に大拍手。

いやー、落語ってほんとうにオモシロイ！ 幸せな気分うちに鉄道博物館の日は暮れました。（ラジオデイズ寺和尚）

三遊亭円丈



本田久作

戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。

高橋源一郎



小池昌代

戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。

養老孟司



内田樹

戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一家言あるこのふたりが存分に語り合う。

そのほか、面白くて物凄いの、朗読や落語がいっぱいです。ラジオデイズサイトによるこそ！
※ご購入や無料ダウンロードには会員登録（無料）が必要です。

「オリンパスモビー寄席」携帯用特別コンテンツ

モビー寄席特別コンテンツでは、モビー寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。

バーコードで簡単アクセス!



p@mobe.jp

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。

※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobe.jp を追加してください。

月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真、見開きページの落語家さんのプロフィール写真を撮影、メールに添付して送信すると、アクセス先URLが記載されたメールが返信されてきます。



Mobe (モビー) とは?

オリンパス (株) とホスティング・アンド・セキュリティ・インクの共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり 263 円～という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客様まで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメルマガ配信などのプランもご用意しました。お申し込みは、PC から <http://pdh.mobe.jp> にアクセス!

ラジオデイズの窓から

日差しが明るさに春を感じるようになり、梅の花もほころびてきました。二月は、人の一年の営みが始まる事始めの月。年始めから怠け癖が出ていた向きには新たな仕切り直し的好機です。まずは体力づくりから歩いてみてはいかがでしょう。ラジオデイズでは、脳内のセロトニン活性に効果のある「ウォーキング・セラピー」や、ながら聴きのお楽しみコンテンツ満載でお待ちしています。